

【展示報告】

「神奈川大学史展示室のリニューアル」について

木内 好信

はじめに

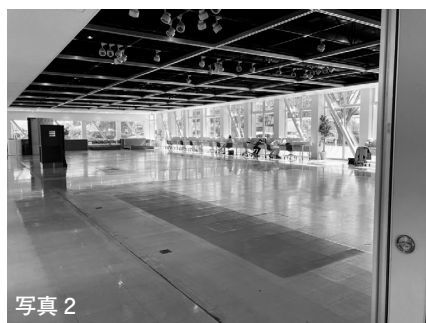
二〇一四年三月の三号館竣工に伴い、本学の活動を



紹介する展示ホールが
三号館一階に設置され、
創立者・神奈川大学史
展示室、神奈川大学日
本常民文化研究所展示
室、企画展示室が置か
れた。(写真1)

これらの展示室にお
いては、神奈川大学の
創立者である米田吉盛
ならびに神奈川大学の

歴史と神奈川大学の建学の精神などを紹介する展示、
渋沢敬三氏のコレクションを起源とする日本常民文化
研究所を紹介する展示、和船に関する展示などが行わ
れていた。



れていた。

神奈川大学では、創
立百周年に向けた将来
構想の実行計画が策定
され、その一つである
キャンパス新総合計画
が推進されている。キ
ャンパス新総合計画に
おいて、神奈川大学創
立五十周年記念事業で
建設された横浜キャン



パス図書館の改修工事を行うことが決定され、図書館の閉館を伴う改修工事が計画された。図書館改修工事中、図書館サービスを継続する必要があることから、図書館代替施設の検討が行われ、三号館展示ホールと三号館内のいくつかの講義室が図書館代替施設と

して使用されることとなった。この決定により、三号館展示ホール内の展示室が一時解体されることとなり、二〇二〇年八月、大学史展示を撤去し、その他の展示についても順次撤去した。(写真2)なお、二〇二〇年四月から新型コロナウイルス感染症対策のため学内立ち入り禁止措置がとられたため、展示室は閉室となっていた。二〇二一年一月、現状復旧を前提に展示室を解体し、同年四月、三号館展示ホールは仮設図書館として使用が開始された。(写真3)

リニューアル後の展示室配置に向けて

二〇二一年度に入り、これまで常設展示を行ってきた神奈川大学日本常民文化研究所と大学資料編纂室において、二〇二二年度中の展示再開に向けた検討が開始された。その検討結果を二〇二一年度第一回神奈川大学展示ホール企画運営委員会(二〇二一年九月九日～十六日にメール会議にて開催)において審議し、リニューアル後も神奈川大学日本常民文化研究所と大学資料編纂室が引き続き展示を行う事、新たな展示室の配置案、企画展示室の運用に関する原案が承認された。

二〇二一年度第一回神奈川大学展示ホール企画運営委員会における決定を受け、展示室配置の詳細検討、リニューアルにあたっての展示内容と経費の検討などを行い、その検討結果を第二回神奈川大学展示ホール企画運営委員会(二〇二一年十一月八日～十二日にメール会議にて開催)において審議・承認された。また、神奈川大学日本常民文化研究所では、大学付置研究所として初めてのケースとなる、研究所、展示室をはじめとする施設群を、博物館相当施設として申請することを決定し、博物館施設として相応しい展示の計画を

進めた。

二〇二二年二月十日に第三回神奈川大学展示ホール企画運営委員会が開催され、二〇二二年二月八日に開催された第六回キャンパス新総合計画推進プロジェクト

横浜キャンパス3号館
1F展示ホール利用検討資料

2022.03.18

案	案名称	日本常民文化研究所		大学資料編纂室	3号館1F 自主学習	課題	評価
		常設展示	企画展示	常設展示			
A案	3号館1階 展示ホール 復旧案1	3号館1階展示ホール復旧		30号館共用部整備	約340㎡	・開かれた展示空間として改善が必要 ・ ・	○
		図面資料1 60㎡		図面資料7 共用部全体			
B案	3号館1階 展示ホール 復旧案2	3号館1階展示ホール復旧			約280㎡	・開かれた展示空間として改善が必要 ・自主学習スペース比較的好い ・ ・	△
		図面資料2 60㎡		60㎡			
C案	3号館地下1階 吹抜けラウンジ 整備案	3号館地下1階吹抜けラウンジ整備		30号館共用部整備	約480㎡	・常民展示スペースの空間が不可 ・吹き抜け区画の消防安全の検討、確認が必要 ・ ・	×
		図面資料3 約70㎡		図面資料7 共用部全体			
D案	3号館地下2階 常民作業室 整備案	3号館地下2階常民作業室整備		30号館共用部整備	約480㎡	・3号館地下2階常民作業室の代替が必要 ・B2階間接的、公開性低い ・ ・	△
		図面資料4 約185㎡		図面資料7 共用部全体			
E案	18号館1階 セミナールーム 整備案1	18号館1階セミナールーム整備		30号館共用部整備	約480㎡	・数蔵セミナールーム1の代替が必要 ・ ・	△
		図面資料5 約140㎡		図面資料7 共用部全体			
F案	18号館1階 セミナールーム 整備案2	18号館1階数蔵セミナールーム整備			約480㎡	・数蔵セミナールーム1の代替が必要 ・各展示室狭い ・ ・	×
		図面資料6 約140㎡					

表 1

トチーム会議において、「三号館一階は学生が集まりやすい場所であることから、ラーニングコモンズの機能を持たせ、展示ホールについては、利用状況や展示方法を考慮し代替場所を提案したいとの意見があり、再検討が必要となった」旨の報告があり、このことについて意見交換を行った。

二〇二二年三月二十四日に二〇二一年度第四回展示ホール企画運営委員会が開催され、キャンパス新総合計画推進プロジェクトチームキャンパス計画専門チームにおける展示室に関する検討結果について報告があり、展示室の移設を含むA案からF案までの六案が示された。(表1) この六案について、日本常民文化研究所、大学資料編纂室において慎重に検討した結果、展示室の配置を見直したうえで、元の三号館展示ホールにて復旧する提案を基に、提案内容の一部修正案を作成し、展示ホール企画運営委員会にて審議することとした。

二〇二二年四月五日に二〇二二年度第一回展示ホール企画運営委員会が開催され、同席したキャンパス計画専門チームメンバーと共に、キャンパス計画専門チームの修正案について意見交換を行った。この意見交

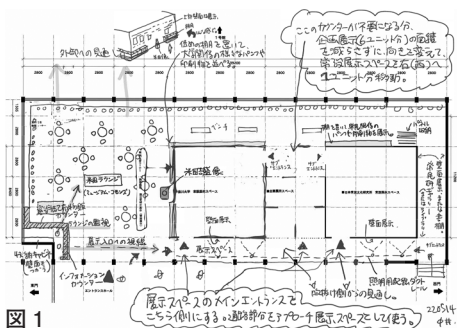


図 1

換結果を踏まえて、日本常民文化研究所、大学資料編纂室において展示室の配置などに関する検討を進めた結果、企画展示室についてはその用途などを考慮して展示室の面積を減じたが日本常民文化研究所、大学史展示室については当初の展示室と同等の面積での配置案となった。この検討結果について、第二回神奈川大学展示ホール企画運営委員会（二〇二二年四月十八日～二十日にメール会議にて開催）において審議・承認されたのち、二〇二二年四月二十七日に開催されたキャンパス整備計画委員会において承認され、展示室復旧に向けた具体的な検討が開始された。展示室の配置などについては、キャンパス計画専門チームメンバーである建築学部の中井邦夫教授のアドバイスにより調整を行い最終的な配置とした。（図1）これを踏まえ

て、日本常民文化研究所と大学資料編纂室において、それぞれの展示に関する検討と、展示制作業者選定のための要件定義の作成に着手した。日本常民文化研究所は、博物館相当施設申請にあたって、常設展示室と企画展示室を博物館施設の一部として申請することを前提に、また、大学資料編纂室は、大学史展示の内容を見直すことを前提とした展示室のリニューアルを進めることとした。改修工事を終えた図書館が二〇二二年四月五日リニュアルオープンし、仮設図書館として使用されていた三号館展示ホールは、書架などの撤去後、展示室がリニュアルされるまでの間、机・椅子を仮設置して学生の自由利用スペースとして開放することとなった。（図2）

展示業者選定に向けて

業者選定に必要な展示制作に関する要件定義書を日本常民文化研究所と大学資料編纂室共同で作成するこ

ミュージアム commons (3号館展示ホール)



図 2

展示室面積 172.48㎡ (リニューアル前) 54.88㎡ (後)
ラウンジ面積 156.8㎡



となり、それぞれの展示に関する詳細な検討を行い、企画展示室の仕様など共通する事項については共同で詳細の検討を行った。展示室の配置計画については、展示室の南側に出入口と展示室受付を配置することとしていたが、展示室内への外光の差し込みによる展示

物に対する影響を避けるために、出入口を北側に変更し、あわせて受付の位置と企画展示室の向きを変更することで、学習エリアが拡張されることとなった。この変更案に基づき、二〇二二年五月二十三日、二十四日に、三号館展示ホール竣工図面と展示室可動パネルの現状の突き合わせと可動パネルの仮設置を行い、同時に、展示室リニユーアル時に使用する可動パネルの特定と余剰パネルの数を確認した。(写真4) 展示の内容については、日本常民文化研究所では、展示を行う研究グループごとに検討を進め、大学史展示については、大学資料編纂室において検討を進め、それら検

討結果と展示室可動パネルの確認結果を踏まえた見積り要件定義書をまとめた。要件定義書に記した展示構成に合わせ、八月二日、展示室可動パネルを再配置し、リニユーアル後の展示室の状態を確認した。八月二十四日、管財課から四社に対して提案・見積り依頼を行い、現場における業者への説明を行った結果、一社辞退、三社から提案・見積り提出があった。各社からの提案・見積りについて精査した結果、株式会社乃村工藝社を選定し、十月六日、同社に発注することとなった。

展示制作

十月七日、乃村工藝社と展示制作に関する両者の体制について打合せを行った。十月十四日、乃村工藝社の展示制作担当者が加わり、第一回目の打合せを行い、納期の確認と展示制作の進め方について





写真6

意見交換を行い、神奈川大学が使用しているクラウド上で、展示制作に関するファイル共有を行うとともに、定例（原則として毎週金曜日）打合せにより種々の確認作業を行った。初回の打合せでは、入札時の提案に基づく展示室全体のデザインと演示具などに関する説明があり、質疑応答が行われた。

二〇二二年十月十四日の初回打合せから、ほぼ毎週打合せを重ね、業者・大学側にイメージの齟齬がないことの確認をしながら、業者の社内で演示具や展示パネルの製作などが行われ、一月二十七日、展示室の外

壁で使用するクロス素材、色の確認をメーカーのショールームにて行い最終決定した。これらの工程を経て二〇二三年二月十三日から、三号館展示ホール現場での展示作業が開始された。（写真5）

まず、可動壁の最終確認と調整を行った後、

展示室内側・外側のクロス貼りなどの作業が行われた。続いて、可動壁下部への中木取り付け、日本常民文化研究所展示室内の演示用メッシュパネルなどの取り付けを行った。（写真6）

二月二十一日、展示ケースを仮保管場所から展示ホールに戻し、同日搬入された造作什器等と展示ケースを設置した。この作業と並行して、グラフィックシートなどの貼り付け作業、パネル類の取り付け作業が、二月二十四日まで行われた。

二月二十四日、一号館正出入口に設置されていた創立者胸像を三号館展示ホールに移動、免震台上に設置した。（写真7）同日、若干の作業を残し、業者による主な作業が終了し、引き続き、日本常民文化研究所、大学資料編纂室が、それぞれの計画に沿って、展示室内への資料展示を進めた。

三月十日、業者による残作業と手直しなどが行われ



写真7



写真 8

その後、展示の再確認、照明等の調整などを行い、三号館展示ホールのリニューアルが完成し、三つの展示室（神奈川大学史展示室、常民文化ミュージアム、企画展示室）、学習スペース、多目的に利用できるラウンジで構成されるスペースとなった。リニユーアルに伴い、三号館展示ホール全体

を神奈川大学ミュージアムコモンズと称することとし、創立者胸像が設置された新たなラウンジスペースは、米田吉盛記念ラウンジと称することとした。

三月二十三日、神奈川大学理事長をはじめとする学内理事、学長に対し展示室完成披露（写真 8）を行い、一般公開を開始した。

三つの展示室

常民文化ミュージアム

一九二二年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設し

た「アチックミュージゼアムソサエティ」を前身とする日本常民文化研究所では、創設されて以来、民具の収集・分類、古文書の収集・整理、漁業史研究など、日本常民社会の多様な領域を対象とし、他に類を見ない独創的な業績を上げてきた。

一九八二年、神奈川大学の付置研究所として再出発した後も、伝統を受け継ぎつつ学際的・国際的研究センターとして一層の発展を見せ、研究成果などの展示を行ってきた。

二〇二三年三月、日本常民文化研究所は、博物館法第三十一条に基づく「博物館に相当する施設」として指定され、その施設の一部として「常民文化ミュージアム」がリニユーアルオープンした。あらたな展示は、研究所を紹介する「プロローグ」にはじまり、「海の



写真 9



写真 10

くらしと知恵」「布とくらし」「生活の記録」の四つのコーナーに分かれている。また、床面には研究所が出版してきた生活文化にまつわる資料集の対象となった地域を示した日本地図、外壁面には、常民文化研究所が歩んできた百年の歴史年表がある。

神奈川大学史展示室

大学史の展示は、東側外壁面に創立者米田吉盛の胸像を設置し、その背面には創立者の故郷の風景写真を配置した。胸像の位置からは、創立者が愛したヤマモモの樹、横浜キャンパス開設時に移植されたケヤキの樹などを見ることができる。展示室の閉室時にも大学

史の概略を知ることができるよう、創立者胸像を設置した壁面に、創立者紹介と学校設立の協力者である、林頼三郎、樋貝詮三、太田哲三、渡邊利二郎の紹介と、横浜専門学校開設間もないころの写真を展示した。また、展示室出入口横には大学史年表を設置し、年表には時代背景がわかるよう、大きな出来事と数点の写真掲載した。

室内の展示は、「学校をつくる」、「学生生活」、「教育と研究」を柱としたテーマごとに展開し、「学校をつくる」では、横浜学院要則、横浜専門学校設立、キャンパス移転、新制大学移行、校歌と校章など、横浜学院開設から新制大学移行に関する展示を行った。「学生生活」では、戦時中に書き残した横浜専門学校生の日記、野外演習や繰り上げ卒業、終戦の日の教授会議事録、戦後復刊した『横浜専門学校新聞』などの戦争と学校のかかわりに関する展示と、記念祭など学校行事、課外活動、学生運動、学生の衣食住に関する展示を行った。「教育と研究」では、横浜学院から始まった神奈川大学の施設拡充の歴史や現在の横浜キャンパスの原型となった神奈川大学総合計画、キャンパスの変遷に関する展示、研究拠点の整備とその活動、

ゼミナールや授業の記録などの展示を行った。

コミュニケーションコーナーでは、卒業アルバムの写真の投影や横浜専門学校当時の下宿の様子をイメージした再現展示を行うとともに、大学史関連情報の提供を行っている。また、通常は閉じているが、テーマを設定した展示や常設展示を補完する展示などを行うことができる特集展示コーナーを設け、様々な展示に対応した。(写真10)

企画展示室

企画展示室では、旧展示において弁才船を中心とした和船の特徴を船舶模型・船大工道具などの資料とわかりやすいパネルで紹介してきたが、展示室のリニューアルにあたり特定の展示を継続的に行うことはせず、学内における様々な研究成果を公表・展示する場として活用することとし、展示内容・目的に応じて展示室を展開できる仕様とした。